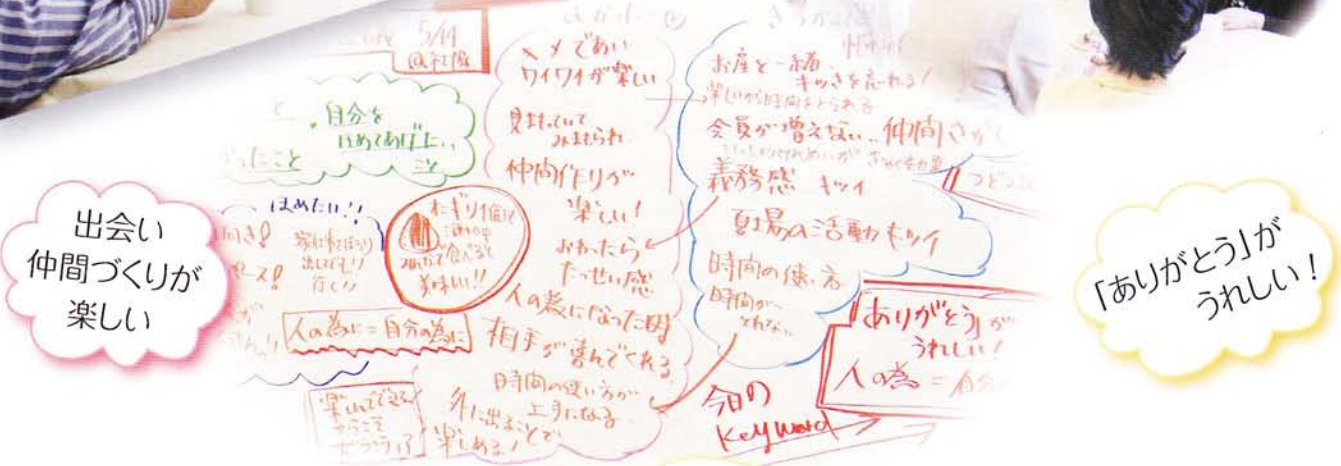


みんなで・楽しく・気軽にちよつとずつのボランティア

ちよぼら

No.25
(2011.7)



時間のやりくりが
たいへんだけど
やりがいがある



ボランティア連絡協議会ワークショップ

「ほっこり井戸端会議～ボランティアについて話そう～」で盛り上がる会員のみなさん!!
キーワードは「ボランティアをやってきて、楽しかったこと、きつかったこと、自分をほめてあげたいこと」(詳しくは2ページをごらん下さい)

大刀洗町ボランティア連絡協議会

会長が交代しました

10年を振り返って

四ヶ所 啓二

この度、ボランティア連絡協議会会長を退任いたしました。10年前大刀洗町にボランティアの組織があったらと考えていたところ、同じ思いの社会福祉協議会と一緒に、既存のボランティアグループの洗い出しから始めて徐々に輪を広げていきました。そして2001年ボラ連設立にこぎ着けることができました。

「一人1ボランティア」町民ひとり一人がボランティアに関わり、みんなで明るく住み良い大刀洗町を作っていけたらと願っています。この10年間出会った多くの方々に深く感謝いたします。長い間ありがとうございました。

よろしくお祈いします

福村 千代美

ボランティア連絡協議会を作り上げてこられた四ヶ所さんの後を引き継ぐ重責を深く感じつつ、ボラ連2代目会長をお引き受けする事になりました。会員のみなさんと手を携えてボラ連を盛り上げて行きたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。



ボラ連ワークショップ

ほっこり井戸端会議 ～ボランティアについて話そう～



ボラ連総会あとの恒例の研修会。今年は趣向がガラリとかわって、役場地域づくり係、村田まみさんとファシリテーター（会の進行役）の協力で、会員同士ざっくばらんに語りあう「井戸端会議」がひらかれました。まず、8つのテーブルに7・8人ずつで席につき、お茶を飲みながら会議がスタート！「今までボランティアをやってきて・楽しかったこと・きつかったこと・自分をほめてあげたいと思ったことを自由にしゃべってくださいね」という投げかけに、みなさんも気軽な気持ちで、次々と体験談をテーブルクロス変わりの模造紙に書き込んでいくという、実に楽しそうな会議でした。「顔は知ってるけど何のボランティアをしてる人だっけ？」「そういえばゆっくり話したことないよね～」と、お互いを知るよいきっかけにもなったようです。ホンネで話し合える井戸端会議の続きを第2弾、第3弾と聞いてみたいと思いました。

ほっこり井戸端会議に参加して

地域づくり係 村田 まみ

「今日はどんな出会いがあるんだろう、そしてどんなすてきな話が聞けるんだろう？」そんな出会いに胸をふくらませて会場へ向かいました。今回は「住民の方々が話し合う場に入って一緒に語り、進行のお手伝いをする職員の育成」として今年度新設された「大刀洗町職員ファシリテーター」の中から8名と、NPO法人地域交流センター大刀洗ランチスタッフが一緒に参加させていただき、初めての試みとなりました。

ボランティア連絡協議会のみなさんはとてもお元気で活気にあふれていました。「喜んでもらうと、元気をもらっちゃうねえ～」と終始笑顔で語るみなさんの熱気に感激しました。

今後も、いろいろな方々がつながり語り合う場にそっと寄り添う事ができればうれしいです。ありがとうございました。

※大刀洗町職員ファシリテーター制度は、全国でもまだ実施しているところが少ない先進的な取り組みです。



Q. ボランティアのきっかけは何ですか？

A. 「高樋は隣組順番で1～2年願いますということで回ってきますが、その後も“私でよかったら”と残る人も多いですよ。」

Q. ボランティアをされていてよかったと思うことは何ですか？

A. 「利用者の方に喜んでもらえるのがうれしい。普段はなかなか出かけない方も、七夕会や敬老会、ゲートボール大会などを楽しみにされています。“また次を楽しみにしとるけん”と言われると、疲れも吹き飛んで励みになります。」

「どの行事も“私がしましょう”と役割分担を自主的に協力してもらえてスムーズに進むので苦労もないし、また利用者と顔見知りになり、助け合い・支え合いを感じて張り合いが出ます。」

Q. 気をつけていることなどはありますか？

A. 「食中毒には特に注意しています。」

「対象者の方にはどの方にも楽しんでもらえるよう、目配り・気配りを心がけています。」

「ボランティアの人には、来れるときに来てくださいということで、気をつかわなくていい雰囲気を作るようにしています。」



取材日：平成23年4月27日（水）

Q. ボランティアのきっかけは？

A. 「西大刀洗は、ミニデイのモデル地区としていち早く立ち上げたのですが、その時のリーダーがまわりに声をかけて集まったのが始まりで、以来、声かけで誘って今に至っています。」

Q. ボランティアをされてみてどう思いますか？感想を聞かせてください。

A. 「会員の方が喜んでくれるのがうれしいし、励みになっています。」

「ミニデイに関わることで地域のことに興味がわいたり、区のことがかわかったりします。」

「いろいろな人との会話の中から学んだり、“がんばろうかな”と刺激をもらったりしています。」

Q. ご苦労はありますか？

A. 「苦労というより“心遣い”は必要だと思います。例えばお出かけをする時、足のわるい方にも参加してもらうために車いすを準備したり・・・。」

Q. 最後に、ボランティアの皆さんからのアピールをお願いします。

A. 「手料理が自慢です。皆さんに喜んでもらうため、旬のものをおいしく食べてもらおうと、料理もデザートも愛情込めて作っています。献立も毎回ミニデイの後に全員で次回の打ち合わせをしています。」

「ボランティアは、お互いに来れるときに参加してもらえればばいいということにしています。ボランティアに参加してみませんか？」



取材日：平成23年6月1日（水）

災害支援活動を通して思うこと

ちょぼら前編集長 戸塚 幹栄

3月30日～4月5日



いわて花巻空港から陸前高田市まで移動する車の中から見る風景は、これから被災地に向かうという張りつめた気持ちとは裏腹に穏やかなものでした。

しかし、2時間程走った辺りから窓の外の景色が一変しました。そこにはテレビで見た以上の悲惨な光景が目の前に広がり、言葉が見つかりません。心の中に沸き立つのは、悲しみ、怒り、憤り、切なさ・・・何と表現したらよいのか分からない感情でした。

私は今回、医療支援チームの一員として参加したのですが、現地に到着してからは対策本部での打合せ、避難所での専門職会議を経て宿泊所である公民館への移動、公民館では前任者からの申し送り、と慌しく夜が更けていきました。我々の班は医師、保健師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技師そして調整員という職種構成でした。皆がそれぞれ自分の役割を遂行することはもちろんですが、職種や年齢を越えた思いやりと助け合う心が、チームに一体感をもたらしていました。

診療所を訪れる患者さん、地元の協力者の方々、他の支援活動チームの皆さんからも、たくさんの優しさをいただきました。被災者の方々は自分達が大変な状況であるにもかかわらず「何処に泊まっているのか?」「食べ物はあるのか?」と我々の心配をしてくれます。また他の支援チームのみなさんも労いの言葉をかけてくれます。そこには、人の優しい心を素直に感じ取り、素直に表現できる自分がいました。

当たり前のことですが、災害支援活動は現地に行くことだけではありません。様々な形で応援する心、心配する心、そんなすべてが支援だと思います。

みんなが、自分が出来ることを、出来るだけ、そこに思いやりの心を込めて。まさに、いまこそ“ちょぼら”です!

被災地の一日も早い復興を皆さんと一緒に祈りたいと思います。



ボランティア活動に関する情報、ご意見、ご感想、お問い合わせは、

「大刀洗町ボランティアセンター」まで

TEL:0942-77-4877 FAX:0942-77-4877

編集スタッフ

スマイル



代表 川 端 好 江
福 村 宮 生
福 村 千代美
戸 塚 幹 栄